Financial Village Presence LLC.

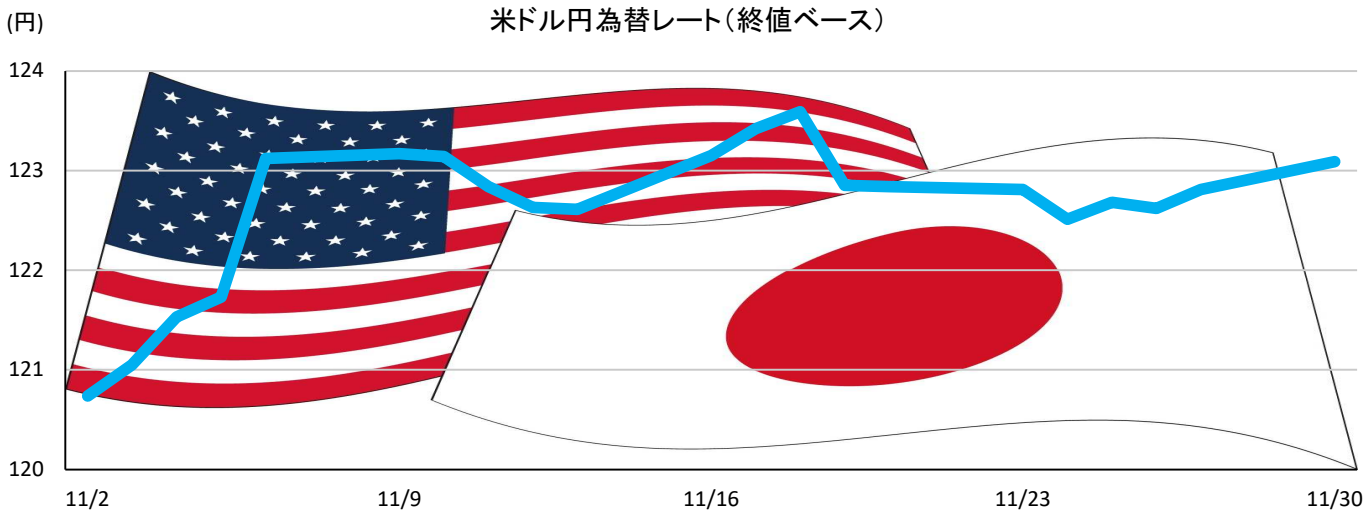
ご参考資料

News Express

2015年12月号

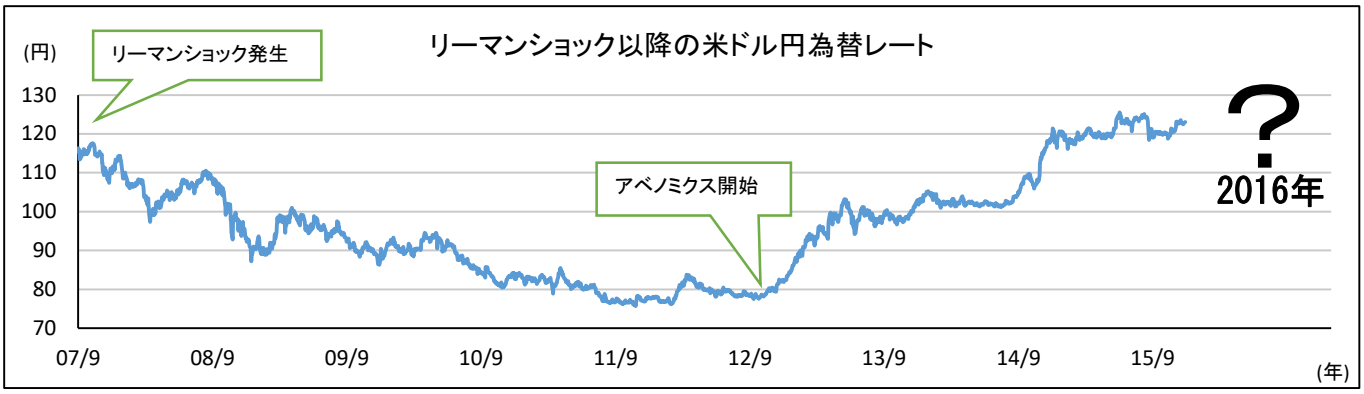
MARKET REVIEW

先月の振り返り： 11月のドル円相場は、120円後半～123円後半のレンジで推移した。雇用統計が予想を大きく上回る良好な結果となり、123円台まで堅調に推移していたが、フランスで発生したテロや、トルコ軍によるロシア軍機撃墜などの影響で、リスク回避の円買いが広がった。ただ、米新規失業保険申請件数などの良好な結果を背景にドル円は再び123円手前まで買い進められた。中国証券会社が規則違反の疑いがあった問題で、再びリスク回避の円買いが見られ122円台前半まで下落したが、次第にドルの買い戻しが強まり122円台後半まで回復した。



EXTRA VISION

今後の展開： ドル円相場は、FRBの年内12月利上げ期待が高まる中、堅調に推移している。しかし、実質実効為替レートで見ると、現在の水準に過剰感があることは確かで、少なくとも、直近１年半と同じペースでドル相場が上昇することは難しそうである。2016年は日米の金利差により（米利上げがある前提で）、直後は、円安ドル高方向に向くように思われる。一方で、欧州でのマイナス金利が珍しくなくなる中、「米ドル以外の投資先が無い」のも現実なのである。ただ、現在の水準を考えると中長期的には、アベノミクス以降続いてきたドル円相場の上昇トレンドは転換期を迎え、緩やかながらも円高ドル安方向に転じる可能性も捨てきれない。2016年は、良くも悪くも米ドル絡みの変動は避けられないだろう。



本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス（以下「当社」）が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていることがありますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなさるようにお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。